

## 2020年度六ヶ所村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当村では、水稻、野菜、畜産など多様な農業経営が展開されているが、近年、非主食用米及び畑作への転換面積増加などにより、水田に占める転換作物の割合は2018年度において約9割と非常に高くなっている。

また、畜産においては、乳用牛の飼育頭数が県の4割を占めており、生乳産出額は県の3割、村の畜産産出額の5割と酪農が地域の重要な産業となっていることから、地元酪農家の需要に応える飼料作物等の生産が必要である。

このため、関係機関・団体等と連携を図りながら、認定農業者の確保及び水田農業経営に意欲的な農業者のリストアップを行うことで担い手の確保を図り、担い手への農地の集積・集約を推進することが重要となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

#### (1) 主食用米

J A機械銀行を活用し、農業普及振興室・農協等の協力を得て集落受委託組織、担い手集団の育成と強化を図り、低コスト・高品質生産に向けた取組を進め、需要に応じた生産をする。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

生産者と実需者との情報交換会等を実施し、実需者の要望等を聞き入れ、今後の生産に取り入れていく。

また、県設定及び地域設定の産地交付金を活用し、多収品種の導入を推進するとともに、省力化への取組を推進し、生産性の向上を図っていく。

更に、地域設定の産地交付金を活用し、飼料用米のほ場で生産された稲わらを畜産農家へ供給することで飼料用米の定着と農業所得の向上、環境に調和した農業の推進を図るとともに、農地中間管理事業を利用して農地集積を推進する。

##### イ 米粉用米

取組なし。

##### ウ 新市場開拓用米

国内の米消費量が減少する中で、新たな販路として海外市場を開拓する必要があるため輸出用米の取組を推進する。

##### エ WCS用稲

生産者と実需者のマッチングを進め、生産面積の拡大を図っていく。

また、地域設定の産地交付金を活用し、需要に応じた取引を行なえるよう、多肥栽培により収量増大の取組を推進するとともに、農地中間管理事業を利用した農地集積による労働時間の縮小による低コスト化を推進する。

##### オ 加工用米

取組なし。

#### カ 備蓄米

J A及び米穀集荷組合と連携を図りながら、需要に応じて取り組む。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦、については、取組なし。

大豆については地域設定の産地交付金を活用しながら、排水対策を行い、収量の増大を図る。

飼料作物は、個人ごとの取組が多く、機械・施設等への投資が厳しい現況である。今後は、地域設定の産地交付金を活用し、低コスト・機械作業効率化を目指して生産性向上を図っていくとともに、農地中間管理事業を利用して農地集積を推進する。

### (4) そば、なたね

そばについては、国設定及び地域設定の産地交付金を活用し、品種の見直しや排水対策の徹底などにより、収量増大・品質向上を図る。

なたねについては、取組なし。

### (5) 高収益作物（園芸作物等）

地域の主力農産物であるだいこんやごぼう、ながいもなどの根菜類やかぼちゃは、現状の水田での栽培が難しく、畑地に比べ経費を要するが、高単価で取引されるなど需要が高い高収益作物であることに加え、2018年4月に村特産品販売所「六旬館」がオープンしたことで、野菜の需要は更に高まっている。

このため、地域設定の産地交付金を活用することで、高収益作物への転換を促進し、需要に応じた生産・販売により、農業所得の向上を図る。

### (6) 畑地化の推進

畑地化については、経営の安定化に向け、野菜等高収益作物の導入と併せて、地域の実状に応じた取組を推進していく。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	43.0	42.0	41.0
飼料用米	30.7	31.0	34.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	5.7	6.0	7.0
加工用米	0.0	0.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	0.0	0.0	0.0
大豆	0.0	1.0	2.0
飼料作物	644.4	650.0	650.0
そば	5.8	6.0	6.0
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物	3.8	4.0	4.0
野菜			
・かぼちゃ	1.9	2.3	2.3
・ごぼう	0.1	1.2	1.2
・にんにく	0.8	0.5	0.5
・にんじん	0.0	0.5	0.5
・だいこん	0.8	2.0	2.0
・その他	0.2	0.5	0.5

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	2019年度（実績）		目標値	
				2019年度（実績）	2020年度（実績）	2019年度（目標）	2020年度（目標）
1	飼料用米 （多収品種）	新規需要米の省力化 への取組助成	集積取組面積 10a 当たり労働時間	(2019年度) 4.0ha	(2020年度) 4.2ha	(2019年度) 17.5時間	(2020年度) 16.9時間
	飼料用米 （一般品種）			(2019年度) 17.0ha	(2020年度) 20.0ha	(2019年度) 17.5時間	(2020年度) 16.9時間
	WCS用稲			(2019年度) 2.0ha	(2020年度) 2.1ha	(2019年度) 13.3時間	(2020年度) 12.9時間
2	そば	そばの収量増大取組 助成	収量増大取組面積 平均収量	(2019年度) 4.30ha (2019年度) 64.1kg	(2020年度) 6.0ha (2020年度) 50kg		
3	別紙2の助成 対象作物 (野菜)	地域振興作物助成	地域振興作物の 作付面積	(2019年度) 3.77ha	(2020年度) 4.0ha		
4	飼料用米（多 収品種・一般 品種）	農地中間管理事業に よる農地集積助成	集積取組面積（単年度） 10a 当たりの労働時間	(2019年度) 0.0ha	(2020年度) 6.0ha	(2019年度) -	(2020年度) 15.8時間
	WCS用稲			(2019年度) 0.0ha	(2020年度) 2.0ha	(2019年度) -	(2020年度) 12.0時間
	飼料作物			(2019年度) 57.5ha	(2020年度) 70.0ha	(2019年度) 10.5時間	(2020年度) 10.1時間
5	飼料用米（多 収品種・一般 品種）生産ほ 場の稲わら	稲わら利用助成 （耕畜連携）	稲わら利用取組面積 稲わら利用導入割合	(2019年度) 1.0ha (2019年度) 6%	(2020年度) 3.0ha (2020年度) 10%		
6	大豆	大豆の収量増大取組 助成	収量増大取組面積 平均収量	(2019年度) 0.0ha (2019年度) -	(2020年度) 1.0ha (2020年度) 76kg		